

平成 29 年度厚生労働行政推進調査事業
「かかりつけ薬剤師」の専門性の検討とそのアウトカムの調査

分担研究報告書

がん化学療法を受けている患者の長期処方分割調剤に関する意識調査

研究分担者	佐藤 秀昭	イムス三芳総合病院薬剤部
研究協力者	小田 慎	板橋中央総合病院薬剤部
研究協力者	大木 稔也	イムス三芳総合病院薬剤部
研究協力者	神 隆浩	イムス三芳総合病院薬剤部
研究協力者	阿蘇 拓樹	イムス三芳総合病院薬剤部
研究代表者	今井 博久	東京大学大学院医学系研究科

研究要旨

医療従事者及び患者の利便性を高め、適正かつ効率的な薬物療法を実現するために、長期投薬の分割調剤を適切に推進することが効果的な手法として重要と考える。

今回、がん化学療法を行い服薬指導した患者を対象にアンケート調査を実施し、長期投薬の分割調剤の導入について患者の意識調査を実施し、分割調剤の普及促進対策について検討した。分割調剤を希望する患者は、薬剤師に検査値などの情報に基づきお薬の副作用を回避するなど薬学的な管理を薬剤師に期待していることが示唆された。

薬剤師は、面分業の下で地域包括ケアシステムを担う一員として、飲み忘れが多い患者、飲み方を忘れる患者、飲み方を間違える患者、一人暮らしの高齢者等に対して、適正な薬物療法を継続するためにも、積極的に分割調剤を導入すべきと考える。

さらに、今回の患者の分割調剤への意識調査から、服薬に不安が有り副作用などの説明を薬剤師から受けたいと考えている患者には積極的に分割調剤の有用性について説明し、患者参加の分割調剤の普及が重要であることが示唆された。

A. 研究目的

現在、甲状腺治療薬、抗てんかん薬、ホルモン療法、生活習慣病などの長期投薬が実施されている。平成28年度の診療報酬改定により、「長期投薬の分割調剤は長期保存が困難な場合や後発医薬品を初めて使用する場合以外であっても、患者の服薬管理今後、医療従事者及び患者の利便性を高め、適正かつ効率的な薬物療法を実現するために、この長期投薬の分割調剤を適切に推進することが重要と考える。すなわち、分割調剤の導入により、薬物療法の安全を確保、処方薬の効果判断さらに残薬などの服薬状況や副作用発現の有無などを定期的に確認することが可能になると考える。さらに、がん化学療法による治療中の患者は、処方薬の安心・安全な服用管理を求めている。

現在、長期投薬の分割調剤は、それほど多く実施されておらず、標準的な方法論も確立されていない。今回、がん化学療法を行い服薬指導した患者を対象にアンケート調査を実施し、長期投薬の分割調剤の導入について患者の意識調査を実施し、分割調剤の普及促進への対策について検討した。

B. 研究方法

1. アンケート調査

- 1) 調査機関 : イムス三芳総合病院
- 2) 調査実施期間 : 平成29年11月～平成30年3月末日
- 3) 調査対象患者 調査研究期間内に院内で服薬指導を実施した患者とする。なお、患者の性別、年齢等は問わない。
- 4) アンケート調査の実施要項(病院薬剤師)

服薬指導した患者にアンケート調査への協力を依頼し同意を得る。ただし、アンケート調査協力は、患者の同意とし強制は

が困難である等の理由により、医師が処方時に指示した場合には、薬局で分割調剤を実施する。その際、処方医は、処方箋の備考欄に分割日数及び分割回数を記載する。2回目以降の調剤時は患者の服薬状況等を確認し、処方医に対して情報提供を行なう」に改定された。しない。

アンケート調査に同意した患者に長期投薬の分割調剤について説明する。患者の要望が有れば院内の長期投薬を分割調剤に変更をする。ただし、他院の処方箋は対象から除外する。

患者が分割調剤を希望した旨を処方医に説明し、分割指示処方箋の交付をお願いする。なお、分割日数については、他の調剤日との日程調整が必要なことから薬剤師(薬局)に一任することをお願いする。

分割調剤を希望し、医師の了解を得た患者の基本台帳を作成する。

2. 薬局の選定

(特定の薬局とは、患者が病院・診療所ごとにいつも処方箋を持参することを決めている薬局とした)

薬局を決めているかどうかについて、病院の薬剤師が患者に確認する。

決めていない患者には、診療報酬で評価される「かかりつけ薬剤師・薬局」の有用性を説明し、出来るだけリストから薬局を選択し、かかりつけとなる特定の薬局を決めて頂く。説明については、たとえば、「お薬手帳」等を参照し複数の保険薬局で調剤を受けている患者には、各処方箋を一元管理し(全ての処方箋を1つの薬局に提出)さらに、情報も合わせて一元管理することにより薬物療法の安心・安全性が確保されるなどの有用性を説明する。

患者が選択した薬局と連絡を取り、かかりつけとして、その患者の処方箋を受けるかどうか確認し、結果を患者に伝える。

当該薬局に患者の分割調剤がある旨を伝える。

次回の調剤日(分割調剤を行った日)に患者と当該薬局の薬剤師に分割調剤にかかわるアンケート調査をお願いし、記載後回収する。

分割指示処方箋の投与期間が終了後、処方医の都合を伺い、分割調剤の処方にかかわるアンケート調査をお願いし、記載後回収する。

なお、現時点で、分割調剤実施している患者が少数なので、分割調剤実施後のアンケート調査については、来年度にまとめて報告する。

3) 解析評価：単純集計とした。

C. 調査結果

1) 調査の協力施設と有効回答枚数

調査対象施設は、研究の趣旨を理解し同意を得ることができた患者 41 人にアンケート用紙を配布し 40 人から回収した(回収率 97.6%)。なお今回、40 人の患者から回収したアンケート用紙で未記載や整合性がとれない各質問項目については、項目ごとの有効回答数とした。

2) 回答者の属性

回答者の属性を表 1 に示した。男性は 23 人(57.5%)、年齢が 60 歳以上は 33 人(82.5%)であった。

表-1 患者の属性

		40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80～ 歳
男性	23 人	3	2	7	7	4
女性	17 人	1	4	3	9	0

3) 分割調剤の実施者

アンケート調査に協力頂いた 40 人中、分割調剤を希望した患者数は、17 人(男性 11 人)、希望しなかった患者数は 20 人(男性 12 人)であった。年齢層は、分割調剤の希望の有無で差が認められなかった(表-2)。

現時点(2018 年 3 月 14 日)で分割調剤を導入した患者数はアンケート調査に協力頂いた 40 人中 5 人(導入率 12.5%)であった。患者の性別は全員女性患者、年齢が 40 歳～70 歳であった。

表-2 患者の分割調剤希望の有無と年齢分布

		40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80～ 歳
分割調剤を希望する患者	17 人 (男 11 人)	3	3	2	7	2
分割調剤を希望しない患者	20 人 (男 12 人)	1	3	6	8	2

4. アンケート項目

4-1 分割調剤の希望した患者の可否と各設問に「はい」と回答した患者の割合

分割調剤を希望する（考える）患者と分割調剤を希望しない患者での各設問に「はい」と回答した患者の割合を比較し、結果を表-3 に示した。分割調剤を希望する患者は希望しない患者と比較して高い割合を示した項目は、抗がん剤を服用している、病院・診療所から提供された検査結果

の報告書を薬局に提出している、服用期間が 30 日以上のお薬が処方されている、「かかりつけの薬局」に関心がある、各項目であった。また、分割調剤を希望しない患者は希望する患者と比較して、高い割合を示した項目は、現在 6 種類以上の異なったお薬を服用している、今までに信頼できる薬剤師に巡り合ったことがある、であった。

表-3 分割調剤を希望する患者と希望しない患者での各設問に「はい」と回答した患者の割合

	分割調剤希望(%)	分割調剤非希望(%)
あなたは、生活習慣病など慢性疾患に対し、お薬による治療を受けていますか	41.2(7/17 人)	50 (10/20 人)
あなたは、病院の複数の診療科、又は複数の医院を受診していますか	47.1 (8/17 人)	40 (8/20 人)
あなたは、抗がん剤の内服薬を服用していますか	75 (12/16 人)	47.4 (9/19 人)
あなたは、病院・診療所から提供された検査結果の報告書を保険薬局に提出していますか	66.7(10/15 人)	38.9 (7/18 人)

継続して、あなたは薬剤師からさまざまな自覚症状について聞かれていますか	76.5 (13/17 人)	70 (14/20 人)
継続して、あなたは薬剤師からお薬による副作用症状について確認を受けていますか	76.5 (13/17 人)	80 (16/20 人)
あなたは、薬剤師の経過観察によってお薬の数が減ったなどの処方変更が有りましたか	23.5 (4/17 人)	15 (3/20 人)
あなたは、がん化学療法を中止又は延期になったことがありますか	31.3 (5/16 人)	36.8 (7/19 人)
あなたは、服用期間が 30 日以上のお薬が処方されていますか	47.1 (8/17 人)	35 (7/20 人)
あなたは、現在 6 種類以上の異なったお薬を服用していますか	17.6 (3/17 人)	35 (7/20 人)
「お薬を飲んだか飲んでないか」わからなくなる場合がありますか	0 (0/17 人)	15 (3/20 人)
あなたは、「かかりつけ薬局」に関心がありますか。なお、「かかりつけ薬局」についての詳細は、指導薬剤師にお聞きください	70.6 (12/17 人)	47.4 (9/19 人)
あなたは、「かかりつけ薬剤師」に関心がありますか。なお、「かかりつけ薬剤師」についての詳細は、指導薬剤師にお聞きください	68.8 (11/16 人)	57.9 (11/19 人)
あなたは、いままでに信頼できる薬剤師に巡り合ったことがありますか	33.3 (5/15 人)	63.2 (12/19 人)
あなたは、「かかりつけ薬剤師」を決めていますか	11.8 (2/17 人)	10 (2/20 人)
あなたは、これまでに処方箋を薬局に提出し調剤を断られたことがありますか	0 (0/17 人)	5 (1/20 人)

4-2 薬物療法に関する設問

1) かかりつけの薬局・薬剤師

かかりつけの薬局・薬剤師に関連する「各疾患のお薬を一つの薬局で受け取りたいと思いますか」、「継続して、お薬の説明は、いつも同じ薬剤師から受けたいと思います

か」の設問については、分割調剤を希望する患者と分割調剤を希望しない患者で平均得点に大きな差はなく、双方の患者で受け取りたいと思う患者の割合がほとんどであった（表-4）。

表-4 かかりつけの薬局とかかりつけ薬剤師

		思わない 患者数 (1点)	あまり 思わない 患者数 (2点)	やや 思う 患者数 (3点)	思う 患者数 (4点)	平均得点
各疾患のお薬を1つの薬局で受け取りたいと思いますか	分割を希望する人	1	2	1	13	3.53
	分割を希望しない人	1	2	1	16	3.6
継続して、お薬の説明は、いつも同じ薬剤師から受けたいと思いますか	分割を希望する人	2	1	5	8	3.19
	分割を希望しない人	1	3	5	11	3.3

2) 患者の薬物療法現在

現在、服用しているお薬に不安を感じたことがありますか、分割調剤を希望する患

者と分割調剤を希望しない患者で評価点に大きな差が認められなかった（表-5）。

表-5 患者が受けている薬物療法についての気持ち

		感じない 患者数 (1点)	あまり 感じない 患者数 (2点)	やや感じる 患者数 (3点)	感じる 患者数 (4点)	平均得点
現在、服用しているお薬に不安を感じたことがありますか	分割を希望する人	8	8	1	0	1.59
	分割を希望しない人	12	5	2	0	1.47

3) 薬剤師とのかかわり

薬剤師の介入に関する設問に関しては、分割調剤を希望する患者と希望しない患者の双方で、薬剤師のかかわりを必要とする割合が多かった。このうち、分割調剤を希望する

患者は、治療が終了するまで継続して、薬剤師にお薬による副作用症状の確認、お薬の副作用症状の軽減や回避のための継続指導を望む患者に関しては、分割調剤を希望しない患者と比較して高い評価点を得た。(表-6)

表-6 薬剤師とのかかわり

		望まない患者数 (1点)	あまり望まない患者数 (2点)	やや望む患者数 (3点)	望む患者数 (4点)	平均得点
治療が終了するまで継続して、薬剤師にお薬による副作用症状の確認を望みますか	分割を希望する人	1	0	6	10	3.47
	分割を希望しない人	2	3	5	10	3.15
治療が終了するまで継続して薬剤師にお薬の効き目の確認を望みますか	分割を希望する人	1	0	8	8	3.35
	分割を希望しない人	0	2	5	12	3.53
薬剤師にお薬の副作用症状の軽減や回避のための継続指導を望みますか	分割を希望する人	1	0	6	10	3.47
	分割を希望しない人	2	1	4	10	3.37
薬剤師に薬物療法も含め継続した健康管理についての指導を望みますか	分割を希望する人	2	2	5	8	3.12
	分割を希望しない人	2	3	4	10	3.16

4) お薬にかかわる情報提供

各お薬との相互作用や副作用など注意事項について詳しく知りたい患者については、分割調剤を希望する患者の割合がと分割調剤

を希望しない患者の双方で知りたい患者の割合が高かったが、評価点に大きな差は認められなかった(表-7)。

表-7 お薬の情報

		知りたくない患者数 (1点)	あまり知りたくない患者数 (2点)	やや知りたい患者数 (3点)	知りたい患者数 (4点)	平均得点
各お薬との相互作用や副作用など注意事項について詳しく知りたいですか	分割を希望する人	0	1	7	9	3.47
	分割を希望しない人	1	2	7	9	3.26

5) お薬の飲み方について

お薬の飲み方を間違えることがある、お薬の飲み方を忘れることある患者は、ないと回答

した患者が多かったものの、分割調剤を希望しない患者で評価点がたまにある、あると回答した患者がいた(表-8)。

表-8 お薬の飲み方への意識

		ない患者数 (1点)	ほぼない患者数 (2点)	たまにある患者数 (3点)	ある患者数 (4点)	平均得点
お薬の飲み方を間違えることがありますか	分割を希望する人	13	4	0	0	1.24
	分割を希望しない人	15	2	2	1	1.45
お薬の飲み方を忘れることがありますか	分割を希望する人	12	4	1	0	1.35
	分割を希望しない人	15	2	2	1	1.45

6) 処方薬と投与期間
服用しているお薬が多い、処方されているお薬の服用期間が長いと思うか思わないかについては、やや思う、思うと回答

した患者は多くなかったものの、服用している薬の多さに関しては、分割調剤を希望しない患者で少し多かった(表-9)。

表-9 処方薬と投与期間

		思わない 患者数 (1点)	あまり 思わない 患者数 (2点)	やや思う 患者数 (3点)	思う 患者数 (4点)	平均得点
服用しているお薬が多いと思いますか	分割を希望する人	10	2	4	1	1.76
	分割を希望しない人	9	3	3	5	2.2
処方されているお薬の服用期間が長いと思いますか	分割を希望する人	6	7	3	1	1.94
	分割を希望しない人	9	5	4	2	1.95

7) 薬剤師の服薬指導

分割調剤を希望する患者と分割調剤を希望しない患者では、薬剤師からお薬の説明を受けて良かったと思う、お薬について、薬剤師の説明は親切で分かりやすいと思う、薬剤師

があなたの生活環境、疾患名や検査値などを理解（把握）しお薬の説明や指導をしていると思う、薬剤師がお薬について専門家と思うでは、双方の患者とも評価点が高く、大きな差が認められなかった（表-10）。

表-10 薬剤師の服薬指導

		思わない 患者数 (1点)	あまり 思わない 患者数 (2点)	やや思う 患者数 (3点)	思う 患者数 (4点)	平均得点
薬剤師からお薬の説明を受けて良かったと思いますか	分割を希望する人	0	0	4	13	3.76
	分割を希望しない人	1	0	5	13	3.58
お薬について、薬剤師の説明は親切で分かりやすいと思いますか	分割を希望する人	0	1	2	14	3.76
	分割を希望しない人	0	0	7	13	3.65
薬剤師があなたの生活環境、疾患名や検査値などを理解（把握）し、お薬の説明や指導をしていますか	分割を希望する人	0	2	6	8	3.38
	分割を希望しない人	2	1	6	11	3.3
薬剤師がお薬についての専門家と思いますか	分割を希望する人	1	0	4	12	3.59
	分割を希望しない人	0	3	4	13	3.5

8) 待ち時間

薬局でお薬を受け取るまでの時間（待ち時間）が長いと思う患者は、分割調剤を希望す

る患者と分割調剤を希望しない患者の双方で、やや思う、思うと回答した患者が多かった(表-11)。

表-11 待ち時間

		思わない 患者数 (1点)	あまり 思わない 患者数 (2点)	やや思う 患者数 (3点)	思う 患者数 (4点)	平均得点
薬局でお薬を受け取るまでの時間(待ち時間)が長いと思いますか	分割を希望する人	0	5	7	5	3
	分割を希望しない人	4	4	8	4	2.6

D. 考察

長期投薬の分割調剤を希望する、希望しない患者は、共に継続して、薬剤師からさまざまな自覚症状について聞かれている、継続して、薬剤師からお薬による副作用症状について確認を受けていると回答した割合が69%~76%と高い割合を認めた。また、分割調剤を希望する患者は、病院・診療所から提供された検査結果の報告書を保険薬局に提出している、かかりつけの薬局に関心があると回答した割合が各67%、70%と希望しなかった患者39%、47%と比較し高い割合を認めた。このことから、分割調剤を希望する患者は、薬剤師に検査値など情報に基づきお薬の副作用を回避するなど薬学的な管理を薬剤師に期待していることが示唆される。実際に分割調剤を導入した患者、5人(3月末時点)全員が、薬剤師からお薬による副作用症状について確認を受けている、かかりつけ薬剤師に関心がある、さらに4人がかかりつけの薬局に関心があると回答している。

分割調剤を希望する、希望しない患者は、共

に、現在、服用しているお薬に不安を感じていない、服用しているお薬に不信を感じていないと回答している。しかし、分割調剤を希望する患者は、薬剤師にお薬との相互作用や副作用など注意事項について詳しく教えてほしい、お薬の副作用症状の軽減や回避のための継続指導を求めていることが示唆され、このことは、分割調剤の導入患者にも同じ傾向が認められたので、薬剤師が積極的に患者に副作用の情報提供を行うことが有用と考えられる。

本研究は初年度の研究であったことから、分割調剤を実施件数が多くなかったものの、協力していただいた患者の調査結果では、分割調剤を希望する、しないに関わらず、薬剤師から副作用等の情報を詳しく教えてほしいなど、薬剤師の関わりを期待する希望が多かった。このことは、現在の薬局の対応から更に患者に対して服薬指導や説明等の対人業務を充実させる必要があると考える。また、分割調剤による有用性は、さらに本研究を継続させて症例を増やした上で検討していくことが必要である。

今後、図-1 に示すように、薬剤師は、面分業を推進し、かかりつけ薬剤師・薬局の機能を発揮することで、地域包括ケアシステムを担う一員として、飲み忘れが多い患者、飲み方を忘れる患者、飲み方を間違える患者、一人暮らしの高齢者について、適正な薬物療法を継続するためにも、積極的に分割調剤を導入すべきと考える。さらに、今回の患者の分割調剤への意識

調査から、服薬に不安が有り副作用などの説明を薬剤師から受けたいと考えている患者には、薬剤師の積極的な介入が患者の要望に応えることにつながる。その手段として分割調剤を進め、処方期間中に、薬剤師が患者の服薬状況を把握し、安心して服用と継続できるようにすることが効果的であるため、導入を進めるべきと考える。

図-1 「分割調剤」を打診する患者選択の要因



E. 参考資料

1) 佐藤秀昭, 富岡佳久, 中村哲也, 小田慎, 大木稔也, 今井博久. 患者による薬局への検査結果報告書提出に影響を及ぼす要因、医療薬学投稿中

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

1) 神隆浩, 阿蘇拓樹, 三原良明, 佐藤秀昭. がん化学療法施行患者の薬への意識とそれに対する薬剤師の今後の取組み、日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2018 横浜 (2018)